

中台、空港で見た対応の「天地」

● 放眼日中 ●

中国を旅すると年々不便なことが多くなっている。中国人はキャッシュレス化などで恩恵があるかもしれないが、外国人はそれに対応できず、高速鉄道の切符から故宮博物館の入場券まで、スマホ決済できなければ予約することもできない。

だが、中国人にも困っていることがある。それはセキュリティチェックではないだろうか。現在、中国で飛行機に乗る場合、国内線であっても2時間前に空港に到着するのがよい、といわれている。その理由は荷物検査の長蛇の列だ。以前から検査はかなり厳しいとは思っていたが、年々強化されちよつと疑義があればやり直しとなり、1人にかかる時間は相当なものとなっている。

そして何よりも税関職員の態度がよくない。彼らの口調は横柄であり、乗客の荷物を粗雑に扱うなど、サー

ビスの向上などとは無縁である。もちろん彼らも毎日あまりにも多い乗客にうんざりしており、イライラして対応が悪くなるのも分らないではないが、それに対して乗客は「文句を言っても時間の無駄」といった風情で、黙々と耐えている。ハード面では進化した中国だが、こういったソフト面ではどうだろうか。

その中国から台北桃園空港に降り立った。現在、台湾の空港も家畜伝染病「豚コレラ(CSF)」などの発生により、従来なかった荷物検査が入国審査前に行われている。友人が日本からカップ麺を持ち込んだところ、乾燥肉が入っているという理由で没収された。特に中台関係が微妙な時期だけに、陰謀説もささやかれるほどの過敏さだ。

筆者のバッグが検査台を通過すると、若い女性職員が「バッグの中に

は何が入っていますか」と丁寧な日本語で聞いてきた。よく見てみると、中に中国の友人からもらったバナナとリンゴが食べずに残っていたのだ。肉類を持ち込めないことは分かっていたが、果物も駄目なのか。

「駄目ですよ、バナナやリンゴを大陸から持つてきちゃ」と彼女はかわいらしい日本語でにこやかに言いながら、それらの果物を廃棄物の箱に入れた。そして「バナナもリンゴですよ。市内に行ったら必ず買って食べてくださいね」と言うではないか。

正直、これには参ってしまった。もし中国で同じことをすれば、怒られるか犯罪者を見るような目で見つつけられそうなどころだが、このマイルドな対応にさすが台湾、とうなってしまう。そして税関職員(衛

生署職員かもしれない)ながら、単に間違いを正すだけではなく、きちんと台湾製品のよさをアピールしているところが何とも素晴らしい。これなら罪の意識がある人などは、きっと台湾バナナを買うだろう。筆者もすぐに行き付けの果物売りのおばさんから、多めにバナナを買って頬張った。

これからのインバウンドは、空港が一つのポイントになるかもしれない。その昔、シンガポールの空港で入国審査官が「ウエルカム」とにこやかに言ってくれたのがとても印象に残っている。翻って、日本の対応はどうだろうか。「それはわれわれの仕事ではない」と言われそうだからあえて聞くことはしないが、単なるお仕事ではなく、日本をアピールするような行動をぜひ取ってほしいと思ってしまう。



コラムニスト・アジアソウオッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。